| | |
|---|---|
| 事例No. | 3179 |
| 公表年度 | R6 |
| 団体の属性 | 一般市 |
| 団体名 | 千葉県習志野市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 公会計 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・セグメント分析 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 施設別セグメント分析 |

事例内容・タイトル

データ整備の事例② 千葉県習志野市

出典

今後の地方公会計のあり方に関する研究会

# データ整備の事例②　千葉県習志野市

○　各施設にコード番号を設定し、<u>予算執行時に施設毎に行政コストを振り分けておくこと</u>で、<u>セグメント分析などの活用時におけるデータ整備に係る負担を軽減</u>している。

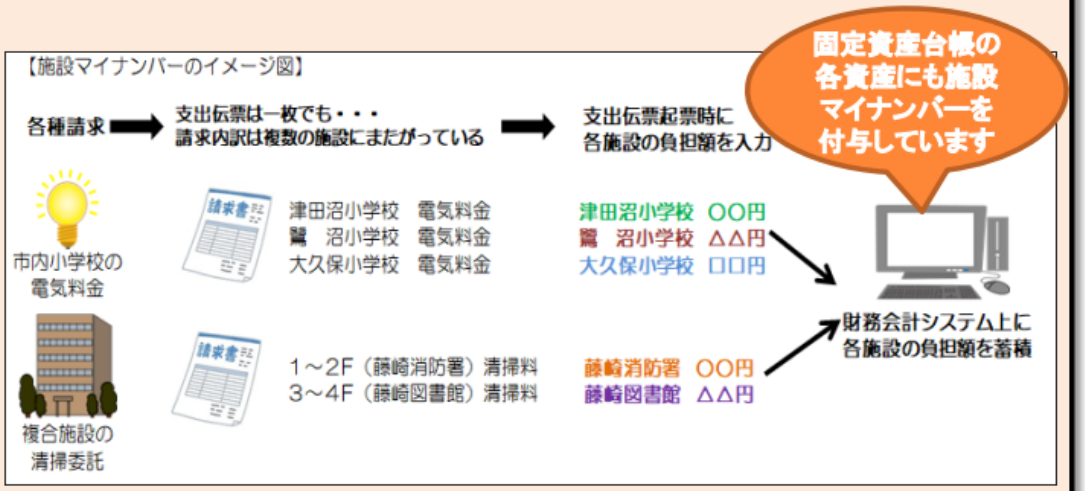
## 事例概要

○　施設毎のコスト分析ができるよう、固定資産台帳の資産登録時に財務会計システムとの共通の「施設マイナンバー」を付記し、各施設に関するより精度の高いコスト情報を把握することとしている。

## 取組内容

○　財務会計システム上に各施設の情報を登録し、コード体系化する「施設マイナンバー」の概念を構築することで、財務会計システムでの予算執行（支出伝票起票）の時点で、各施設に係る費用を伝票起票担当者が財務会計システム上に直接入力する。

○　1枚の支出伝票で複数の施設にまたがる支出も、支出伝票起票の際に、各施設の支出額を財務会計システム上に記録する。




## 効果等

○　複数施設について一括して予算措置していたり、1つの施設について複数の担当課が予算措置していると、施設ごとのコストを算出する手間が掛かるが、施設マイナンバーを基に施設ごとに情報を整理しておくことで、当該施設に関係する支出額を容易に集計できるため、施設ごとのコストの把握が可能となった。